第三十六回東北俳句大会・秋田大会(紙上句会)

主催 公益社団法人 俳人協会

主管 俳人協会 秋田県支部

大会賞

鶏冠を粋に傾け羽抜鶏 青森 今 順子

傾むきし子の竿燈へ父走る 福島 古市 文子

青き香のかすかに残る落葉焚く 福島 甲田 雅子

バトンパスの練習つづく柿若葉 秋田 佐藤

きさらぎの和紙に透けたる菓子の ₹ 1 ろ 宮城 玉井

祖父と行きし山独活掘や味噌持 つ 7 岩手 福島 甲田 馬場

ちちははの顔をおぼえて初笑ひ

一合を夫婦で余す花疲

海鞘裂けばどくつと匂ふ北 の海

岩手

小野寺東子

秋田

佐藤

茂樹

雅子

吉彦

瑛子

景心

お七夜を祝ふ木の実を植ゑにけ ŋ

福島

古市

文子

山形

牧

福島

加藤十美子

折鶴の折り目を糺す広島忌

栗駒山に駒形現るる種浸し

井越 芳子特選

鶏冠を粋に傾け羽抜鶏

傾むきし子の竿燈へ父走る

青き香のかすかに残る落葉焚く

小澤 實特選

バトンパスの練習つづく柿若葉

きさらぎの和紙に透けたる菓子のいろ 宮城 玉井

秋田

佐藤

景心

瑛子

吉彦

福島 福島

甲田 古市

雅子 文子 青森

今 順子

祖父と行きし山独活掘や味噌持つて 岩手 馬場

寺島 ただし特選

ちちははの顔をおぼえて初笑ひ

一合を夫婦で余す花疲

海鞘裂けばどくつと匂ふ北の海

岩手

小野寺東子

福島

加藤十美子

文子

福島

甲田

雅子

秋田

佐藤

茂樹

藤本 美和子特選

栗駒山に駒形現るる種浸し

折鶴の折り目を糺す広島忌

お七夜を祝ふ木の実を植ゑにけり 福島 古市

牧

草 野
力丸特選

川原友記子	宮城	供花を積む海鵜の島の定期船
小笠原聖子	青木林	気まぐれな旅に出てゆく桜桃忌
古市 文子	福島	傾むきし子の竿燈へ父走る
		鈴木 正子特選
髙橋 富子	福島	緑さす休み休みのストレッチ
兵藤 康行	宮城	白神の山毛欅を揺さぶる蝉しぐれ
渡辺 圭子	福島	今年竹少年夢へ歩き出す
		髙宮 義治特選
加藤いろは	熊本	丸善に湘子ゐさうな夕薄暑
吉田千嘉子	青森	にはとりのほつつき歩き麦の秋
小原 靜子	秋田	田を植ゑて露月百句を読み返す
		小林 里子特選
岡本 幸治	宮城	千年の滴りを汲む紙コップ
菅原幸	秋田	白神の登山口駅夏来たる
松田 俊洋	宮城	馬鈴薯の花は蝦夷の香父のこゑ
		坂内 佳禰特選
野村 英利	青森	百年の大樹の下の植木市
沼倉 規子	岩手	病院の空力泳の鯉のぼり
岡本 幸治	宮城	千年の滴りを汲む紙コップ
		及川 永心特選
八重樫美佳	岩手	祖母の手はいつもひんやり蛍狩
佐藤 霜魚	青森	狩の犬一夜の土間に仮寝して
江渡永見子	青森	野焼の火棘あるものの燃えしぶる
		澤口 航悠特選
村井 康典	岩手	流れ着く異国の言葉磯遊
八重樫美佳	岩手	祖母の手はいつもひんやり蛍狩
佐藤 茂樹	秋田	一合を夫婦で余す花疲
		白濱 一羊特選
小島 緑泉	山形	特大を川より上げて西瓜割り
五十嵐恒子	山形	小さき子を挟んで雪の通学班
秋場 洋子	山形	濁り川根こそぎ秋を攫ひけり
		吉田 千嘉子特選
高橋みつを	秋田	充足りし生活の証この日焼
牧静	山形	子の描く日焼の父の巨きな手
横道輝久子	山形	老境のただ中にをり春満月
		小野 寿子特選
藤田 光徳	福島	登山靴投げ出す先の日本海
古市 文子	福島	避難解除の牛舎に匂ふ今年藁
高橋武比古	宮城	鬼房の句集繙く春の宵
		草野 力丸特選

伊藤 寛特選